



レジデントからのメッセージ

ジュニアレジデントの
出身大学一覧
(2004年~2022年)



一般研修プログラム・総合医学オープンコース
ジュニアレジデント(2年目)(2021年度入職)
豊田 直毅先生



総合医学オープンコースの1番の特徴は、オプション選択でローテーションできる期間が7クールと長く、研修する診療科の選択肢が多いことです。学生の時点では将来の診療科が明確に決まっていなくても多いでしょうし、診療科は決まっても初期研修の期間は専門以外のマイナープロブレムの対応を学びたいと考えている方も多いと思います。そんな優柔不断さんには総合医学オープンコースはぴったりです！志望科が途中で変わっても、オプションの変更の自由が効くので、初期研修を回る中でめまぐるしく変わっていく自分の考えをローテーションに反映させることができます。注意点として、本コースは当センターの診療科し

か選択できないので、初期研修でいろんな病院を回ってみたいという方は外科専門医コースなど他のコースもチェックしてみるといいと思います。

当センターの魅力は大学病院の専門性をもちながらcommon diseaseの経験値をつけられることだと思います。特に救急当直では研修医1年目と2年目がベアになってfirst touchで対応しているのが先輩研修医や経験豊富な救急科のドクターから教えてもらいながら実践的な力が身につけられます。また研修医同士の仲が良く、勉強熱心な人が多いので、至る所で自主的な勉強会が開催されています。当直で経験した症例の復習や気になるテーマを気軽に同期とディスカッションしている時間は非常に充実感があり、本当にこの病院に来てよかったと感じています。当センターで初期研修を終えた若いドクターも数多く在籍しており、上下の繋がりが科をまたぐ繋がりが強くとても風通しの良い環境です。

魅力に溢れる素敵な病院ですが、話し足りないこともたくさんあるのでぜひ一度見学にいらしてください。みなさんに会えるのを職員一同楽しみにお待ちしております！



一般研修プログラム・内科コース
ジュニアレジデント(2年目)(2021年度入職)
中田 雄也先生



内科コースでは、1年目は内科ローテートが中心となります。病棟研修を通じて各疾患の病棟管理を学べる他、教育熱心な上級医の先生方からレクチャーをして頂ける機会も多いです。具体例を挙げますと、糖尿病代謝内分分泌科では血糖コントロールについて、呼吸器内科では胸部レントゲンの読影について、循環器内科では心電図の読み方、心エコーの所見の取り方についてなどが挙げられます。研修の最初の時期に、どの科でも必要となる基本的知識、手技を身につけることができます。病棟ではcommonな疾患から専門的疾患まで幅広く経験できます。ロールモデルとなる上級医の先生も身近にいるので、後期研修以降のイメージがしやすいのも魅力の一つ

です。また、内科コースのオプションは期間が長いことに加え、当センターの診療科はもちろん、他院の診療科も選択することができます。幅広い視野で自分の思い通りの研修が可能です。

研修医は2学年合わせて60人おり、全国各地から集まっています。学閥がないため居心地が良く、身近に研修医がいるのでお互いに励まし合い、切磋琢磨し合いながら研修をすることが出来ます。週に1回の総合回診に加え、各自で積極的に勉強会も開催しているので高いモチベーションを保つのに最適な環境です。人数が多いからといって手技の経験が少なくなることはありません。病棟では週1回程度に分担制で処置当番があり、私が1年目の慣れない時期は2年目の先輩方に何度も助けて頂きました。救急外来でも1年目と2年目がベアとなり、ここでもまた多くの手技の経験が可能です。いきなり1人で手技を経験するのではなく身近に頼れる先輩方がいるのも当センターの魅力であると思います。

以上になりますが、800字では伝えきれない皆さんの魅力が他にもございますので、是非一度見学にいらして実際の雰囲気を感じてみてください。



一般研修プログラム・外科専門医コース
ジュニアレジデント(2年目)(2021年度入職)
田中 宥暉先生



外科専門医コースは外科専門医の取得を目指す研修医向けのコースで、一般消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科をそれぞれ必ずローテートできます。各診療科での手術数は豊富で、外科専門医取得に必要な症例をまんべんなく経験できます。また、不足している症例や興味がある症例があれば、空き時間に手術に参加させていただくことも可能です。一方、内科、救急科、麻酔科など他の診療科も幅広くローテートできますので、外科医としての土台を築くにはもってこいのプログラムといえます。

さて、外科医に必要な素質とは何でしょうか。私はまだ初期研修医であり、未熟者ですが、現時点でそれは技術・知識・判断力・協調性であると考えております。

技術は手技の経験を積み重ねることで得るものだと思います。当センターの研修では静脈採血、動脈採血、末梢静脈確保から中心静脈カテーテル穿刺、腰椎穿刺、気管内挿管とありとあらゆる手技を経験し、習熟することができます。また、時には指導医の先生方の十分なサポー

トの元、手術の執刀医となることも可能です。

知識は様々な症例を経験し、指導医からのfeedbackを頂いたり、文献に当たったりすることで得られると思います。当センターは市中病院と大学病院の特徴を兼ね備えており、commonな疾患から珍しい疾患までバラエティに富んだ症例を経験できます。指導医も皆熱心に指導してくださり、いつでも相談し、feedbackいただける環境です。また、図書室やオンラインでのジャーナルアクセスも完備されており、いつでも最新のエビデンスに当たることができます。

判断力は救急の現場や手術室で培うことができます。当センターの救急車の年間搬送台数は日本でも有数であり、様々な主訴の患者様が来院されます。研修医がファーストタッチをし、必要な検査・処置を考え、時には一刻も争う瞬間にどう行動するのかを考えることにより判断力を磨くことができます。手術室では麻酔科研修や手術の助手で予期せぬ事態に陥った際にどう行動するか考えることも、今後必要な判断力だと思います。

当センターには多くの指導医がいますが、研修医も2学年で60人在籍しています。研修する科が同じであったり、当直と一緒にしたりと互いに協力し合う場面は多くあります。時には先輩や同期に助けられ、時には刺激され、直面している問題や最近得た知識を共有しようということが日々繰り返されています。また、コミニカルの方々ともコミュニケーションをとる機会が豊富にあり、協調性を育むことができると考えております。

まだまだ伝えきれないことが多くありますので、是非直接いらして当センターの実際をご覧いただければと思います。

旭川医科大学	福島県立医科大学	順天堂大学	日本医科大学	金沢大学	名古屋大学	鳥根大学	産業医科大学
札幌医科大学	筑波大学	昭和大学	北里大学	金沢医科大学	藤田医科大学	川崎医科大学	久留米大学
北海道大学	獨協医科大学	帝京大学	東邦大学	福井大学	三重大学	山口大学	佐賀大学
弘前大学	自治医科大学	東京大学	横浜市立大学	山梨大学	滋賀医科大学	徳島大学	長崎大学
岩手医科大学	群馬大学	東京医科大学	聖マリアンナ医科大学	信州大学	京都府立医科大学	香川大学	熊本大学
秋田大学	埼玉医科大学	東京慈恵会医科大学	東海大学	岐阜大学	和歌山県立医科大学	高知大学	大分大学
東北大学	千葉大学	東京女子医科大学	新潟大学	浜松医科大学	鳥取大学	愛媛大学	宮崎大学
山形大学	杏林大学	日本大学	富山大学	愛知医科大学	広島大学	福岡大学	琉球大学



小児科研修プログラム

ジュニアレジデント(2年目)(2021年度入職)

濱田 陽平先生



小児科プログラムでは12週間の小児科研修(内4週間はNICU)が必修となっています。小児科研修の内容としては採血や静脈路確保、超音波検査などの基本的な手技を数多く経験しつつ、診療に関して経験豊富な指導医からフィードバックを受けることができます。また、週2回小児輪番制度で小児救急の受け入れをしているため、急性期の初期対応を学ぶことも可能です。NICU研修では分娩に立ち会い、指導医の下で新生児蘇生法(NCPR)を繰り返し実践します。

当センターは大学病院としての高い専門性だけでなく、市中病

院的な側面も持ち合わせているためcommon diseaseから稀な疾患まで経験することができます。小児科研修プログラムの場合、12週間のオプション研修があるため、小児に関連する診療科(小児外科や耳鼻咽喉科など)を選択することが可能です。

当センターの研修医は全部で60人と比較的多く感じますが、症例数が非常に多いため、症例や手技の取り合いになることはほとんどありません。また同期や先輩後輩との距離が近いため、各科で学んだことをレジデント室で共有したり、定期的に勉強会を開いたりすることでより多くの症例に触れることができます。

小児科研修プログラムだからといって小児に偏りすぎているわけではなく、医師としての土台を作る上ではとてもバランスの取れた研修ができる病院だと思えます。色々と話してきましたが、百聞は一見にしかずと言いますので、社会情勢にもよりますが、少しでも興味を持った方は一度当センターへ見学に来てみてください。お待ちしております!



産婦人科研修プログラム

ジュニアレジデント(2年目)(2021年度入職)

木原 彩智先生



産婦人科研修プログラムでは、産科8週、婦人科8週研修を行います。麻酔科や小児科、NICUなどがプログラムに組み込まれており、将来産婦人科医として働く際に必要な知識を習得することができます。産婦人科では内診やエコー、手術の執刀・助手の機会を多くいただけます。上級医の数も多く、事前に資料をいただけるなど丁寧に指導していただけます。若い上級医も多く、気軽に質問に答えていただけます。手術の執刀は責任があり緊張しましたが、勉強になる貴重な機会となりました。オプション選択は他のコースに比べると少ないですが、産婦人科志望の方にはぴったりのコースだと思います。

私が当センターの産婦人科プログラムを選んだ理由は、学生の

頃から産婦人科に興味を持っていたこと、初期研修で内科全般の疾患を一通り学び、適切に診療できるようになりたいと考えていたためです。当センターは大学病院でありながら、common diseaseから稀少な症例まで様々な経験ができます。また、教育熱心な指導医が多く、幅広く様々なことを学ぶことができます。同期も30人と少し多く感じる方もいると思いますが、一人一人様々な診療科をローテーションしているため日々学んだことをフィードバックでき切磋琢磨しながら研修しています。志望科や興味のある分野も一人ずつ異なることから自主的に様々な内容で研修医同士での勉強会を行っています。初期研修に必要な知識、手技等を一通り学ぶ環境は整っていると感じます。

研修は慣れないことだらけで不安も多いですが、指導医との定期的な面談を通して研修状況や悩みなど相談にのってくださるのでモチベーションを保つことができます。

以上がプログラムの説明と当センターの特徴です。文字だけでは伝わらないことも多いと思うので、少しでも当センターに興味を持っていただければ幸いです。



ホスピタリスト重視プログラム

ジュニアレジデント(2年目)(2021年度入職)

竹田 七海先生



ホスピタリスト重視プログラムは、高度急性期病院である大学病院と地域医療支援型病院の両方で研修を行う「たすき掛け」コースです。私はspecialtyを有しながら総合的な視野を持って医療を実践し、トータルケアを通して地域医療に貢献出来る医師を志し、common diseaseから高度疾患の治療・管理まで幅広く経験することの出来る本プログラムをとて魅力を感じ、選択しました。

自治医科大学附属さいたま医療センターでの研修は、大学病院の特性上、日本語又は英語による院内での症例発表や学会発表、そして上級医による研修医レクチャーの機会が豊富で、academicな研修環境が整っています。救命救急センターに指定されており、外傷や中毒を含めた重篤な病態の患者さんの診療も数多く経験することが出来ま

す。また出身大学の異なる勉強熱心な研修医が多く集まっており、互いに切磋琢磨しながら成長することが出来ます。

一方さいたま市民医療センターは、地域のクリニックからの紹介例も多く、walk in症例または救急搬送症例を、週1回の当直に加え、内科ローテート中は週2回の救急当番と2週間に1回の土曜日救急当番を通して経験出来るため、内科救急の経験を徹底的に積むことが出来ます。救急外来で帰宅とした患者さんを、後日指導医と共に内科再診外来でフォローアップすることも可能です。また各医療関係職員が顔の見える関係であるからこそ、薬剤やリハビリ・栄養管理に関する相談もしやすく、更にはMSWとの社会調整にも主体的に関わることが出来ます。

どちらの病院も指導熱心な上級医が揃っており、日々の些細な疑問にも丁寧かつ確に指導していただける体制が整っています。性質の異なる2つの病院を良いところを組み合わせることで出来る本プログラムを選択して良かったと、とても満足しています。ぜひあなたも環境に恵まれた本プログラムを選択し、充実した研修医生活を送りませんか。